

(別紙4(2))  
**目標達成計画**

事業所名：グループホーム年輪

作成日：平成23年12月26日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
 目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	勉強会でも大きな項目として学習の機会を設け、取り組んでいるため、職員の意識を深まりつつある。日々のケアの中で自分の言動のどこに拘束があるか自分自身と向き合うことが必要であり、それを一番の目的とし職員一丸となりケアの統一に努めたい。	当たり前的事ではあるが「入居者が主体」となるケアを作っているという意識をそれぞれの職員が強く持ち、職員同士がお互いのケアの質を見極め、必要な場合には改善を求め合う事が出来る職場環境や人間関係を作り直していく必要がある。	具体的なケアの場を振り返りながら、何が問題なのか、どうすれば良かったのかを考え合っていくロールプレイを用いた学習も実施していかなければならない。一番重要な事は誰のためのケアなのかを強く意識できるような学習の場を設定したいと思っている。	12ヶ月
2	26	最終的にケアプランの内容をまとめるのは介護支援専門員であるが、アセスメントやモニタリングについてはすべての職員が関わる必要があり、情報を共有することが求められる。	職員一人ひとりのアセスメント力やモニタリング力を高めていくことを一番の目標としたい。今、入居者が何を求めているのかや、それを阻害している問題が何なのかを見極めることが必要であり、そのためには入居者と向き合い正しい視点を持つことが重要である。	職員を「入居者担当」とし、担当者会議を隔月に行うことで、入居者のことをプランに添って意識的に見る事が出来るようになってきた。今後もその取り組みを継続しつつ、担当外の入居者についても情報の交流やプランについての意見交換が出来るようにしたい。	12ヶ月
3	26	地域活動である隣保班活動や敬老会活動等機会に応じ参加し、交流を図っている。ただ、その活動が十分参加できているとは言えない。内外共に地域の方へ情報発信する機会をもっと増やしたい。	地域との「人の交流」という面から見れば市街地の中にある施設して好立地条件を十分に活かしてきていない。地域の誰もが気軽に訪問できる施設にしていくことが目標である。地域に開かれた施設となっていく為にも職員自らが活発に溶け込む努力をしていきたい。	現在、地域との定期的な交流の場は9月の敬老会と1月のどんどんやが主である。又、日々の活動では近くのスーパーに同行される程度で症状により偏りが生じるため、運営推進委員会の中で区長、民生委員、役場職員の方々のお力をお借りしながら交流の機会が増えることを期待している。	12ヶ月
4					

5					
---	--	--	--	--	--

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。